

亀山市人口ビジョン（骨子案）に対する意見

【個別意見】

番号	該当 ページ	項目	意見	回答
1	27	3. 平成29（2017）年2月改訂版人口ビジョンの検証	合計特殊出生率が平成29（2017）年2月改訂版の2023年の設定値で1.72だったが、実績値（三重県算定）では1.26にとどまった。これは平成29（2017）年2月改訂版で、「今後、人口減少対策を推進することにより、人口減少の進行を抑制することが可能である」という判断によるものであり、この判断が間違っていたと言わざるを得ないと考え。しかし、人口ビジョン（骨子案）のこの設定値と実績値が乖離した理由を「特に新型コロナウイルス感染拡大」に求めているような書き方であるが、実績値を見るとコロナ感染拡大以前からコロナ感染拡大時と変わらない数値になっており、コロナ感染拡大を理由にはできないと考える。従って、平成29（2017）年2月改訂版での「人口減少の進行を抑制することが可能」と判断した誤りを認め、それを記述するべきである。	平成29年2月改訂版の人口ビジョンにおける合計特殊出生率の設定値については、本市の1995年から2014年にかけての合計特殊出生率が、国・県と同様に上昇傾向にあったことを踏まえ、その傾向が続くものと考え、当時の国の当面の目標値を参考に、本市の将来の展望に基づく基本推計として、1.80を上限に上昇傾向が続くものとして設定しておりました。しかしながら、社会経済情勢の変化等により、国においては平成27年（2015年）以降、下降傾向が続き、本市においては上下を繰り返しながら、令和5年（2023年）には1.26となっております。また、人口の社会増減については増加傾向が続く中、それを超える自然減が続いており、総人口は県内他市と比較すると緩やかではありますが減少傾向が続いておりますことから、最終案の作成を進める中におきまして、ご指摘の点も踏まえつつ、記載内容を検討してまいります。
2	40	4. 将来人口推計 （3）亀山市の将来人口見通し	将来人口の見通しを社人研準拠指針と比較して「増加する」と書いているが、比較すべきは平成29（2017）年2月改訂版人口ビジョンの将来人口見通しである。平成29（2017）年2月改訂版人口ビジョンでは、「本市においては、自然減・社会減対策を効果的に進めることにより、3,700人の人口減少の抑制効果を発揮させ、2060年に概ね50,000人の総人口確保めざす展望を定めます。」と書いているが、今回示された人口ビジョン（骨子案）では、2060年に42,300人にまで減少する見込みになっている。なぜ、このような誤りをしたのか、その理由を記述するべきである。	平成29年2月改訂版の人口ビジョンでは、人口の将来展望として2060年に概ね50,000人の総人口の確保を目指すこととしておりましたが、今回お示しいたしました人口ビジョン（骨子案）では、社人研の「日本の地域別将来推計人口（2023（令和5）年推計）」の推計方法に準拠し、その設定値とともに独自推計に向けた2つのケースを設定した上で、本市の将来推計人口を推計するなど、人口減少の進行を踏まえた上で、「将来人口の見通し」をお示ししております。しかしながら、本市の総人口は、比較的緩やかではあるものの、平成29年2月改訂版における基本推計を下回っておりますことから、最終案の作成を進める中で、ご指摘の点も踏まえつつ検証してまいります。